

令和元年度 事業計画書

学校法人 文理学園

目 次

【1】 学園の事業計画（概要）	
1．学園の教育環境整備	
(1) 日本文理大学	・・・3
(2) 日本文理大学附属高等学校	・・・3
(3) 日本文理大学医療専門学校	・・・3
【2】 設置校の事業計画	
1．日本文理大学	
(1) 中長期改善施策計画の推進	・・・4
(2) 教育活動	・・・4
(3) 研究活動	・・・4
(4) 就職活動	・・・4
(5) 広報・学生募集活動	・・・4
(6) その他	・・・5
2．日本文理大学附属高等学校	
(1) 教育活動	・・・6
(2) 広報・生徒募集活動	・・・8
(3) 進学・就職活動	・・・10
3．日本文理大学医療専門学校	
(1) 教育活動	・・・11
(2) 学科共通教育活動	・・・13
(3) 広報・学生募集活動	・・・13
(4) 就職活動	・・・14

令和元年度 事業計画書

学校法人文理学園は、「産学一致」の建学の精神に基づき地域社会との連携をこれまで以上に緊密なものとし、第3期中長期改善施策の策定及び実現に向けて、教育環境の充実、堅固な財政基盤の確立を目標とした、令和元年度事業計画を作成した。

【1】学園の事業計画（概要）

1. 学園の教育環境整備

学園の教育環境整備を以下のとおり計画する。

【共通検討事項】

老朽施設・設備等改修計画及び建物耐震化対策
省エネ推進計画

（1）日本文理大学

1号館（教室棟）館内整備（耐震工事後の環境整備）

18号館（経営経済学部棟）耐震化事業（補強工事）及び工事完了後の環境整備
学内 省エネ化事業

【検討事項】

教室棟空調熱源更新（電気空調化）

（2）日本文理大学附属高等学校

【検討事項】

グラウンド整備（女子ソフトボール部仕様）

ホームテッド文理寮 建屋解体検討

（3）日本文理大学医療専門学校

校舎内環境整備（老朽対策）

【2】設置校の事業計画

1. 日本文理大学

(1) 中長期改善施策計画の推進

「第3期中長期改善施策」を策定し、第2期中長期改善施策の結果等を踏まえて、年度別アクションプランを着実に実施していく。

(2) 教育活動

5年後の将来像の確立、大学、学部学科、大学院、別科が定める学修成果目標の達成

- 1) 大学（ディプロマ・ポリシー）における学修成果目標の達成
 - 2) 学部学科、大学院（ディプロマ・ポリシー）における学修成果目標の達成
- 学生満足度の向上
- 1) 授業満足度の向上
 - 2) 学生サポート充実度の向上
 - 3) 主な教育環境の整備

(3) 研究活動

研究業績数の増加

- 1) 教員の研究業績数の増加
 - 2) 大学の広報となる研究の充実
- 科研費採択率、受託研究数、共同研究数の増加
- 1) 科研費に採択するための環境整備
 - 2) 同一県内企業、地方公共団体との受託研究、共同研究の実施件数の増加

(4) 就職活動

就職実績 質の向上

- 1) 1・2年生の就業意識率の向上
- 2) 成績上位者の就職実績づくり
- 3) 就職先満足度率の向上
- 4) 早期離職率の逡減

(5) 広報・学生募集活動

志願者数の維持・増加

- 1) 志願者・入学者数の維持・増加
- 情報発信数の増加
- 1) 発信数の増加

(6) その他

収入増加策と経費節減

- 1) 補助金収入額の増加
- 2) 寄付金収入額の増加
- 3) 事業活動収支差額の改善
- 4) 退学率の逡減

安定的な大学運営

- 1) スポーツ振興の推進
- 2) 組織開発
- 3) 危機管理体制の確立

2. 日本文理大学附属高等学校

(1) 教育活動

教務部門

1) 基礎学力の向上・定着

- (a) 進路指導部と協働して進路保障に向けて、基礎学力の向上を引き続き推し進めていく。
- (b) 学校全体として基礎学力向上を位置づけ、基準を作成していく。
- (c) 「授業を大事にしていく」姿勢で、教員含め全体で取り組んでいく。

2) 不登校生徒への取組み

- (a) 欠席が多い生徒（不登校傾向の生徒）に対して、夏季休業中に学校に登校を促して補充授業を実施し、2学期に向けて学習の取組み、生活の改善等の意識付けを行う。
- (b) 担任、学年団、教務で連携して情報を共有し、家庭訪問や面談を進めていく。

3) 授業改善や研修への取組み

- (a) 教科会議、コース会議などの会議を実施できる時間を設けていく。
- (b) 「わかる授業」の実践をするため、各教科で工夫を行い、ICT教育やアクティブ・ラーニング等の研修に参加し、教員の技術・指導力の向上を図る。
- (c) 校務PCやタブレットを用いてのICT化の中で校務システムの簡素化や授業への取組みを行っていく。
- (d) 基礎力診断テストの結果を受けて研修会を開いていく。

4) 新高大接続に向けて

- (a) 新しい高大接続システムへ変化していくため、教員研修を引き続き行い、生徒に対しても講演やポートフォリオ蓄積により系列大学進学への意識の向上を図るとともに進路保障を行う。
- (b) 中長期改善計画を基に求められる生徒像を逆算し、授業改善や学び直しなどを行っていく。

5) 業務の簡素化・マニュアル化

- (a) 業務を簡素化できるよう、ソフト及びハード面で改善を図るべく校務支援システムの導入を検討していきたい。

生徒指導部門

1) 学校運営方針に基づく基本的な生活習慣の確立

(a) 挨拶の徹底

挨拶10か条の啓蒙活動を実施し、校内外に関わらず立ち止まって、気持ちの良い挨拶ができる生徒の育成に努める。また、授業開始、終わりの号令と挨拶を徹底させる。

(b) 愛校心の醸成

校歌を堂々と歌える生徒の育成を図る。毎日清掃時間に校歌を流すなど、きちんと覚えさせる。全校集会での歌唱練習に取り組む。

- (c) 清掃の徹底
美化委員会を中心に主体的な清掃活動ができる生徒を育成し、清潔感漂う学校作りを目指す。また、地域の美化活動や環境保全にも貢献できる生徒の育成に努める。
 - (d) 身だしなみ指導の徹底
制服に誇りを持たせ、校内だけではなく、登下校時においてもきちんとした着用ができる生徒の育成に努める。また、違反行為があればイエローカード制度を用いて、生徒だけではなくその違反内容を保護者にも伝え指導協力を求める。
 - (e) 時間厳守指導の徹底
遅刻者データを管理し、時間を守る意識の定着を図る。
- 2) 交通事故防止・マナー
- (a) 道路交通法遵守の広報活動と指導。
 - (b) 長期休暇前後に、自転車の点検を実施する。
 - (c) 自転車事故に遭った時の対処方法の指導の徹底。
 - (d) 入学説明会にて自転車保険の全員加入の周知と徹底。
 - (e) 自転車通学生だけでなく、全校生徒に交通安全教室を実施する。
 - (f) 自転車防犯登録推進と施錠（ツーロック）の徹底。
 - (g) 置き引き対策など防犯意識の高揚を図る。
- 3) その他
- (a) 学習活動に不必要な物品の校内持ち込み禁止の徹底を図る。
 - (b) 携帯電話・スマートフォンの校内持込を昨年度の3学期より許可した（試行期間）。今年度も、緊急時、災害時などの危機管理などに対応できるように校内持ち込みを許可するが、利用上のマナーや個人情報上のトラブル防止についての学習活動を実施する。とりわけ、SNSについては、その問題点を教員が学び、近年問題視されている拡散行為も犯罪にあたることを生徒に周知する活動を具体的に展開する。
 - (c) いじめ防止については、LHRを実施するだけでなく、学期毎に全校生徒を対象にアンケートを実施する。また、夏季休暇前に保護者にもアンケートを実施し、学校生活における「ひやかし」「からかい」の様子が伺えるか早期に発見し、深刻ないじめ問題に発展する前に解決を図る。
 - (d) 地域の方や企業・団体の方の力もお借りして、様々な視点を加えた生徒指導を行う。

特別活動部門

- 1) 部活動の強化
- (a) レスリング部をはじめ、硬式野球部やサッカー部など全国大会や九州大会レベルで戦えるチーム・選手の育成。また附属高校と日本文理大学が連携をした、合同練習や施設活用などの実施や、スタッフ派遣による指導等の学園内連携を深めると同時に、学園内進学率の向上に努める。

2) 生徒募集

- (a) 菅奨学生枠を活用し、各強化部とも今年度入学生以上の部員獲得に努め、定員の充足を目指す。

3) 学校行事

- (a) 学校活性化及び地域に開かれた学校づくりを意識した開催となるよう、創意工夫した行事の企画・立案及び実施。また、部活動や各種委員会等を通じて地域と学校の連携強化に努める。
- (b) 報道機関の活用や附属高校のHP等の掲載充実による、積極的な広報アピール活動を実施する。

特別進学コース、進学コース部門

1) 生徒の学力向上・進学実績向上・進路保障

- (a) 0限目課題の作成・個別添削指導の実施。
- (b) 補習(夏季・冬季・春季休業中、8限目、土曜日<月4回程度>)の実施。
- (c) 対外模試実施後、校内反省会及び進学審査会を開催。
- (d) 生徒対象及び保護者対象進学講演会を開催
- (e) コース集会を学期に1回開き、生徒の意欲喚起、激励をする。(特進コース)
- (f) 海外語学研修をオーストラリアで実施。(特進コース)
- (g) 英語検定、漢字検定、語彙読解力検定など各種検定の取り組みを強化。
- (h) 平日19時まで、土曜日17時までの放課後学習(希望者)の実施。
- (i) 夏季、冬季休暇中の自学自習の学習のための登校学習を促す。
- (j) 合同進学ガイダンス等への参加
- (k) 国公立、難関大学合格率の向上を目指し、特別補習、個別添削指導の実施。
- (l) 本学園系列校への進学を促す。(進学コース)
- (m) 総合的な学習の時間を利用した進路学習の実施。(進学コース)
- (n) 進路学習における出前授業の実施(進学コース)
- (o) 学習時間調査を実施し、学力の向上に努める。
- (p) 教員研修に積極的に参加し、教員の指導力向上に努める。

2) 生徒募集対策

- (a) 中学生対象土曜セミナーを年間5回程度実施し、生徒募集に繋げる。
- (b) 中学校への出前授業に参加し、特進コースをアピールする。
- (c) 佐伯市内の塾を訪問し本校の説明や中学生情報をつかみ、生徒募集に繋げる。
- (d) 在校生の弟妹の勧誘、在校生の後輩の勧誘を1学期より行う。

(2) 広報・生徒募集活動

特別進学コース・進学コース部門

1) 生徒募集対策(特別進学コース・進学コース)

- (a) 中学生対象土曜セミナーを年間4回程度実施し、生徒募集に繋げる。
- (b) 中学校への出前授業に参加し、特進コースをアピールする。
- (c) 佐伯市内の塾を訪問し本校の説明を行い、中学生の情報を把握することで生

徒募集に繋げる。

- (d) 在校生の弟妹の勧誘、在校生の後輩の勧誘を1学期より行う。

中高連絡・生徒募集部門

1) 早期募集活動の徹底

(a) 弟妹調査とその活用の徹底

在校生・卒業生の弟妹については、保護者と本校との間に接点があるので早期に募集活動がしやすい。また、勧誘される側にも「弟妹減免」というメリットがあるので、最優先で募集すべき対象である。昨年度の反省も踏まえ、担当を明確にして情報収集から具体的な募集活動までの一連の流れについて、早期に行うこと、確実に行うことの二つを徹底する。

(b) 各中学校の名簿入手とその活用

各中学校の入学式で得た名簿や、各種見学会で収集した名簿を元に、各種募集活動を行う。具体的には、昨年度も実施した1学期からの本校在校生への聞き取りによる中学生の情報収集を行い、本校オープンスクールや各種セミナー等主催行事への参加勧誘などへつなげていく。本校在校生・卒業生の保護者や、本校卒業生についても同様の協力をお願いする。

2) 学力・部活動(競技力)中位層の募集強化

前年度入試で入学生全体の学力中位層の割合が特に伸びた。少子化を前提とした今後の募集上の柱となる戦略なので、今後も学力中位層の獲得には全力で取り組みたい。特進コース以外のすべての学科・コースで全職員が意識して取り組み、来年度の佐伯市内の受験生大幅減(前年度比2クラス減)に備える。本校入学試験での合格ラインの維持は大切だが、在校生が実態として実力をつけていかないと学力がある生徒の募集に反映しないので、校内各部署とも連携していく必要がある。

また、学力と同様に、部活動の分野でも競技力が平均的な生徒が最も人数的には多いので、強化部以外の部活動でも、そういった生徒を幅広く募集することが生徒数につながる。その場合にも、弟妹調査や在校生からの聞き取り調査で得た課外活動の情報を活用することで、効率よく募集することができる。

3) 募集重点地区の設定

本校入学にメリットがある校区について、競技力・学力優秀者の勧誘等あらゆる面で重点的かつ優先的に情報収集・募集を進めて、効率的に生徒を集める。

(a) スクールバス対象校区

スクールバスの運行により、経済面、安全面でのメリットが大きい。

また、臼杵南地区・北浦地区は新たにスクールバス対象となるので、広報も含めて力を入れる。

(b) 本校入学率の高い校区

ここ数年の中学校における本校入学率が高い校区については、「地域での評価が高い」「先輩が大勢進学している」など最初から募集を有利に進めること

ができる。

(c) 本校入学者の学力が高い校区

前年度、特に津久見市内からは、学力が特に高い生徒が多数入学する傾向が強まった。本校に対する評価の高さを背景に、重点的に募集を進める。

4) 女子生徒の積極的募集

今回の入試で男女比率についてはかなり改善されたが、本校の現在の学科・コース編成、部活動の編成（男子が選ぶ分野のほうが多い）を考えると、常に女子生徒の比率が落ち、それが全体の募集へも悪影響を及ぼす可能性がある。今後、今後も留意していく必要がある。女子に有利な検定や進路の紹介、女子中心の部活動の募集強化、女子にとって魅力となる制服や校内施設の広報などを行っていく。

5) 生徒募集関連行事への勧誘

生徒募集につながる行事には以下の種類がある。各中学校に実施してもらうことで、確実に本校に関する広報効果は高くなるので、積極的に各校に働きかけ、実施数を増やしていく。また、行事の内容についても各部門の協力のもと参加者の満足度アップにつながるよう充実させていく。

- (a) 出前授業：番組表があり、中学校単位で要請を受けて実施している。
- (b) 中学校単位の見学会：特定の中学校が毎年定期的実施している。
- (c) 本校主催セミナー：コースごとの取り組み。現在は特進・マルチメディアの2コースのみ年1回実施している。
- (d) オープンスクール：夏・秋の年2回開催で、募集の中心的な行事であり、参加者は増加傾向にある。

(3) 進学・就職活動

活動目標

- (a) 本校独自の進路指針の運用。
- (b) 日本文理大学・日本文理大学医療専門学校との連携を積極的に推進。
- (c) 佐伯市の企業等との信頼関係構築をキャリア教育で実施。
- (d) 就職が困難と思われる生徒に対する早期の対応を組織的に行う。
- (e) LINE(キャリア教育)を活用して、外部講師からの講話などを取り入れる。
- (f) 本校卒業生とのコミュニケーションを活用した活動を取り入れる。
- (g) PTA総会後に保護者との連携を密にする場を多くし、6月にある日本文理大学オープンキャンパスに3年生保護者を参加する機会を設ける。

就職指導

- (a) 就職内定率100%の達成と新規企業開拓。

進学指導

- (a) 系列校への進学者数の増加

3. 日本文理大学医療専門学校

(1) 教育活動

診療放射線学科

- 1) 個別指導
 - (a) 学年ごとに目標を据えることで学習意欲の向上を図り、留年や退学をする学生数を減らす。
 - (b) 学生の到達度に合わせた国家試験対策を実施することで診療放射線技師や放射線取扱主任者資格の合格率を高める。
 - (c) 3年生には、基礎的な内容の小テストを授業開始前に実施し基礎学力の向上を図る。また、学習進行表を作成し到達度の把握を徹底する。
 - (d) 定期的に行う模擬試験の成績不良者に対しては、不得意科目や理解度の低い原因を探ったうえで課外学習を義務付け早期の学力向上を図る。指導に当たっては「解く・調べる・聞く」を中心とした学習を徹底する。
 - (e) 総合的に基礎学力を向上させるため、不得意科目の克服を目的に、授業時間外の学生指導を徹底する。
 - (f) 各学年の留年生に対し、専任の担任を付け生活指導ならびに学習指導を徹底し学力の向上を図る。
- 2) 国家試験合格率100%を目標にした、支援体制を強化
 - (a) 夏期休業中に3年生を対象とした国家試験対策講座を開講する。
 - (b) 国家試験対策の一貫として勉強合宿を9月に実施する。
 - (c) 3年生には、国家試験対策として年7回の模擬試験を実施し、不得意科目の克服に向けた指導を徹底する。また、出題傾向の偏りを防ぐために企業による有料模試を導入する。更に学内模試の難易度レベルを統一させ、学生個々の到達度を把握したうえで成績不振者の指導を実施する。
 - (d) 予定された全講義終了後には、国家試験まで直前対策講座を開講する。
- 3) 関連資格の取得
 - (a) 診療放射線技師資格の他に、第1種及び第2種放射線取扱主任者の資格取得を目指し、放課後及び夏季休業中に特別対策講座を開講し学習の習慣づけを徹底する。また、第2種放射線取扱主任者資格の全員取得を目指すことで、最終目的である国家試験合格に向けた学習意欲の向上を図る。
- 4) その他
 - (a) 国家試験不合格者に対する支援策として、聴講生制度を利用させ不得意科目の解消と全体的な学力向上を図り、国家試験合格のための指導を徹底する。

臨床検査学科

- 1) 個別指導
 - (a) クラス担任による個別面談を活用し、学生との信頼関係の構築を早い時期から行う。
 - (b) 成績不振者または生活態度の改善が必要な学生は、保護者と連携をとり指導

を行う。必要に応じて保護者面談を実施する。

- (c) 学科内で学生情報を共有化し、早めの助言、指導を行うことで勉強不足、学力不足による留年者、退学者の減少に取り組む。
- 2) 国家試験合格率100%達成を目標に、支援体制を強化
 - (a) 年9回の外部団体主催の模擬試験に挑戦し、弱点科目の把握と克服のために徹底指導を行う。
 - (b) 9月に合宿を行い、クラス全員の意識を高める。
 - (c) 模擬試験目標未達成の場合には課外学習を行い、教員からの個別指導や補講を受ける体制を強化する。
 - (d) グループ学習を導入し、弱点の克服と自身の学習方法の確立を図る。
 - (e) 1、2月に国家試験対策講座を実施し、科目ごとに少人数教育を行う。
 - (f) 3年留年生に対しては学生ひとりひとりの希望や弱点を確認し、前期1、2年次の基礎医学科目の復習を行う。
- 3) 関連資格の取得
 - (a) 2年生以上には、第2種ME技術実力検定試験に挑戦させ、卒業時までの全員資格取得を目指す。4月から7月の土曜日を開講し、8月中旬から試験直前まで特別対策講座を設けて徹底指導する。
- 4) その他
 - (a) 2年生の9月に医療現場への見学を実施し、モチベーションの維持や将来像確立を目指す。
 - (b) 出身地実習を継続するために、計画的に病院開拓を行う。
 - (c) 実習施設との連携を深めるための意見交換会を開催し、より充実した実習が行える環境をつくる。
 - (d) 実習機器の経年劣化によるメンテナンス、修理を随時実施し、実習に支障がないようにする。修理が出来ない備品については計画的な予算獲得と新規購入を実施する。

臨床工学科

- 1) 個別指導
 - (a) 担任、副担任を中心に学生の指導にあたりるとともに、必要に応じて助言、個別指導を行い、学力の向上、問題の解決に取り組む。
 - (b) 成績不振及び生活習慣等に問題のある学生については、個別指導、個人面談を実施する。また、必要に応じて保護者面談を実施し、保護者とも連携を図りつつ状況の改善に努める。
- 2) 国家試験合格率100%を継続することを目標に学生への支援体制を強化。
 - (a) 模擬試験(計11回)を実施し、模試成績を分析して現状の把握、不得意科目の確認を行い、学力の向上及び不得意科目の改善が図れるように指導を行う。
 - (b) 模擬試験の成績不良者には居残り学習を義務付けるとともに、個別指導を行い、成績の改善が図れるように指導を徹底する。

- (c) 通常講義が終了する2月以降にも国家試験対策講座を実施し、学力の向上及び不得意科目の克服が図れるように指導を徹底する。
- (d) 聴講生(1名)に対して、国家試験に合格できるように指導を徹底する。
- 3) 関連資格の取得
 - (a) 第2種ME技術実力検定試験を2年生及び3年生の未取得者には受験させ、試験に合格させることに加えて、受験勉強を通して学力の向上が図れるように指導を行う。
 - (b) 土曜日補講(4月中頃から7月中頃の期間の毎週土曜日) 夏期補講(8月中旬から9月初旬の期間の平日)を実施し、合格率100%を目標に試験対策の指導を行う。
 - (c) 模擬試験(計4回)を実施し、模試成績を分析して現状の把握、不得意科目の確認を行い、学力の向上及び不得意科目の改善が図れるように指導を行う。
- 4) その他
 - (a) 臨床工学技士の業務内容を知ること、医療現場の雰囲気を経験することを目的に、大分大学医学部附属病院の施設見学を6月に実施する。
 - (b) 実習施設との連携を密にし、より充実した臨床実習が行えるように臨床実習担当者会議を9月に実施する。
 - (c) 学生間での臨床実習内容の共有、保護者への学生生活の報告を目的に臨床実習発表会及び保護者参観を9月末に実施する。
 - (d) 成績状況、生活状況、進路状況等について、保護者への報告、相談を目的に地域個人面談会を九州各県及び沖縄県で9月に実施する。

(2) 学科共通教育活動

- 授業アンケートによる授業改善を図る。
- 入学前教育を実施する。
- 後援会による保護者への地域個人面談会を実施する。
- 実習先との連携を図るため、意見交換会を開催する。
- 校友会(卒業生)地域交流会を開催する。
- ボランティア活動への参加を支援、強化する。

(3) 広報・学生募集活動

平成30年度入試の志願状況を踏まえ、入学生の安定的確保に向けて、令和元(2019)年度募集は、次の事業を中心に各学科の定員充足を目指す。

オープンキャンパス等

オープンキャンパス等のイベントは、受験生や保護者の関心が高く、募集活動の中でも重要なものである。オープンキャンパスを3回、ミニ見学会を10回実施する。

情報発信の充実

公式ホームページ等における動画での学校案内を制作し、加えてSNSと連動させることで認知拡大を目指す。

高等学校等の訪問

受験生・在校生の出身地域への訪問活動をより強化する。

県外高校訪問においては九州全域に153病院の学外実習先が存在することや、出身地(地元)への就職率が高いことをアピールする。

入試制度の見直し

多面的・総合的な評価を行える選抜方法であるか確認を行うとともに、課題を抽出し、対応案を盛り込んだ新たな入学者の選抜方法を策定する。

広報担当者の育成

様々な業務に対応可能となるよう、継続して担当者の育成を行い、また教職員の意識改革を図る研修を行う。

(4) 就職活動

医療現場で活躍できる質の高い医療従事者の育成を目的に「進路探求セミナー」のプログラムを企画・立案し、実施する。(10回/年)

学生数に相応する求人数を確保するため就職先の開拓を行い、各医療機関との連携強化の構築を目指す。

進路選択に有益となる情報収集の場として「就職説明会」を開催し、円滑な就職活動のサポートを行う。(2019年9月20日開催予定)

低学年より就職活動の早期化を促し、年度内での就職内定率100%を目指す。

各学科3年生担任が中心となり就職支援活動の一助として応募書類の添削、適性検査対策、面接指導等を実施し、学生に寄り添った支援活動を行う。(学内一斉模擬面接の実施)

就職活動に関するすべての求人情報データの整理及び分析に努め、視覚的にわかりやすい情報提供を行い、就職活動の支援を行う。

臨床現場以外での活躍の場として、治験、医療機器メーカー等の新たな就職先の開拓を行い、進路選択の幅を拡げていく。

進路指導部の取り組みを外部に情報発信し、学生募集の増加に繋げていく。